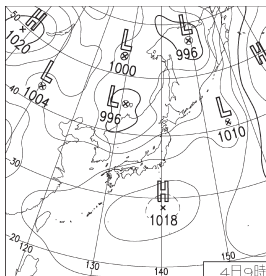


# 日々の天気図

— No. 64

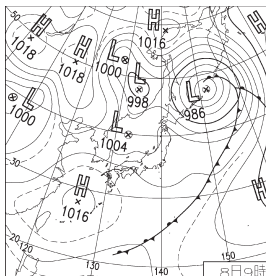
## 2007年 5月

- ・5日～6日、九州南部大雨。24時間で鹿児島県薩摩川内市中郷224mm、上屋久町214.5mmの降水。
  - ・25日～26日、全国的な大雨。24時間で北海道白老町228mm、長野県王滝村190mm、和歌山県田辺市176.5mmなどを各地で100mm超える。
  - ・西国・九州を中心に西日本少雨。
- (気象庁予報部予報課)



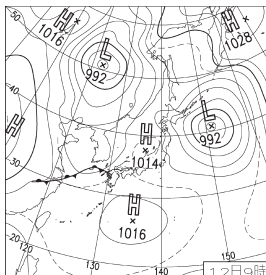
### 4日(金) 東・北日本初夏の陽気

九州で朝から雨の他は、全国的に概ね晴れ。北・東日本は6月上旬～7月下旬の暑さ。帯広市で平年より8.9℃高い24.3℃。函館でサクラ満開、札幌でサクラ開花。



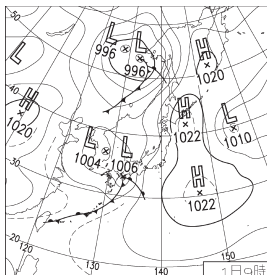
### 8日(火) 九州で光化学スモッグ

朝、関東地方南部に海上から霧が流れ込む。日中は全国的に晴れや曇り。東海地方～西日本は気温が上がる。岡山県高梁市の32.4℃など所々で30℃を超える陽気。



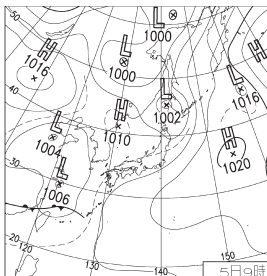
### 12日(土) 室蘭、サクラ満開

高気圧に覆われて全国的に晴れたが、九州は停滞前線の影響で夜雨。北海道は、寒気が入ったため網走、十勝地方で低温となり、霧が発生。網走ではサクラ開花、遅い春の訪れ。



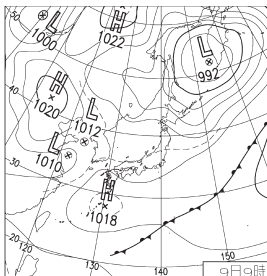
### 1日(火) 西日本 激しい雨

九州を低気圧と前線が通過。西～東日本は雨。北日本は曇りや晴れ。雨は西日本で強く、鹿児島県上屋久町で50.5mm/1h。甲信地方や関東東部は最高気温が平年より5～7℃低め。



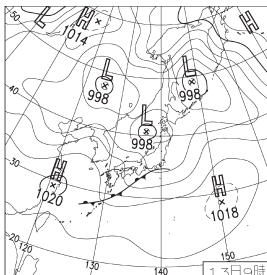
### 5日(土) 鹿児島非常に激しい雨

寒気を伴った低気圧の通過した北日本と暖かく湿った空気の入った九州南部～南西諸島は雨や曇り。その他は高気圧に覆われて概ね晴れ。鹿児島県垂水市高峠73mm/1h。



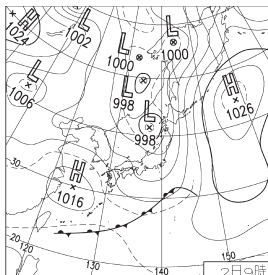
### 9日(水) 東北でも真夏日

北海道の一部で雨や曇の他は、概ね晴れ。西日本～東北南部にかけて所々で真夏日。静岡・愛知県等では日最高気温が5月の極値を更新。静岡県浜松市佐久間で33.6℃。



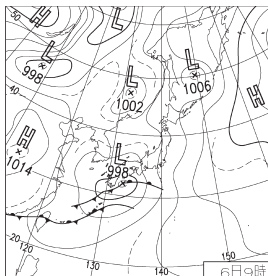
### 13日(日) 東北 北部で雷雨

寒気を伴った低気圧が北日本を通過。北～東日本は所々で雷を伴った雨で風も強まる。佐渡市両津では最大風速が22m/s、5月としての1位を記録。その他の地方は晴れ又は曇り。



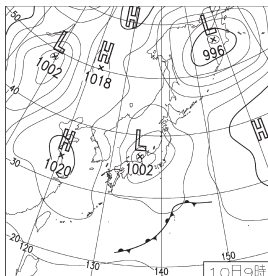
### 2日(水) 北日本で強風

低気圧が日本海から北海道へ東進。北日本は、風が強く雨や曇り。青森県八戸市で最大瞬間風速27.2m/s。西日本は晴れ、関東地方は晴れて気温があがる。群馬県上里見で27.6℃。



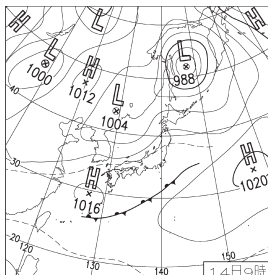
### 6日(日) 雨の立夏

南岸の低気圧が東北東進。北海道を除く全国で雨。鹿児島県薩摩川内市中郷で224mm/24hの大雨。伊豆諸島も30mm/1h強の激しい雨。近畿～関東は日中気温が下降し肌寒い一日。



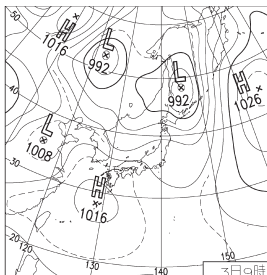
### 10日(木) 寒気渦通過

上空に寒気を伴った低気圧が本州を通過。東日本と近畿は所々で雷雨。近畿を除く西日本は雨後晴れ。北日本は晴れ。軽井沢でひょうを観測。北海道浦河町でサクラ満開。



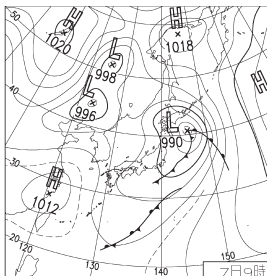
### 14日(月) 九州北部等で黄砂

北海道の日本海側で雨や曇、東日本の太平洋沿岸の一部で曇、南西諸島で雨や曇の他は概ね晴れ。北海道留萌市でモンシロチョウ初見、平年比8日遅し。福岡・長崎市等で黄砂。



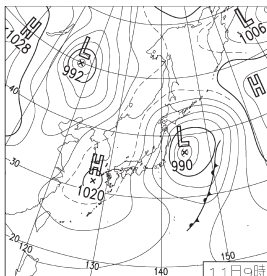
### 3日(木) 北海道でも気温上がる

低気圧の影響で北日本では雲多く所々で雨、その他は九州南の高気圧の張り出しで概ね晴れ。全国的に気温が上がり所々で夏日。6月上旬並の気温。札幌市でツメ開花。



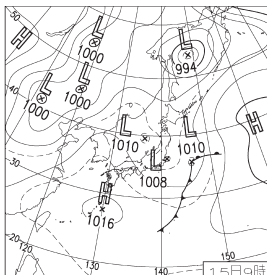
### 7日(月) 海上で濃霧発生

北海道の南東海上に低気圧が発達しながら北東進。北海道は所々で雨、その他の地方は概ね晴れ。寒気が入った日本海や三陸沖、千島近海の広い範囲で霧が発生。



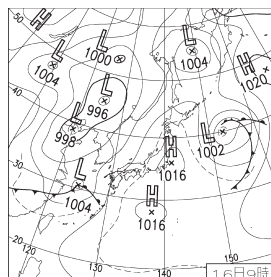
### 11日(金) 東～北日本 風強まる

低気圧が発達しながら三陸沖を北東進し、北日本は曇りや雨、その他は高気圧に覆われて晴れ。東～北日本は風強まり、福島県白河市で最大瞬間風速31.7m/s。



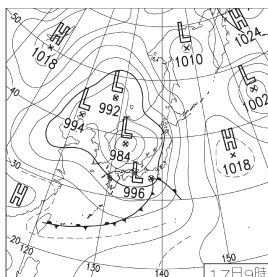
### 15日(火) 所々で雷雨

上空に寒気を伴った気圧の谷が東日本を通過。東～北日本の所々で雷雨。西日本は沖繩付近の高気圧に覆われて概ね晴れ。稚内市・紋別市でサクラ開花。九州の所々で黄砂。



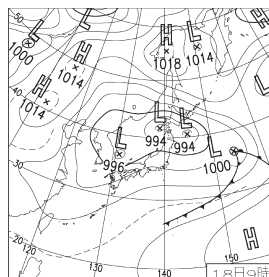
### 16日(水)沖縄地方 梅雨入り発表

東～北日本は高気圧に覆われ晴れ。前線が接近した西日本は九州から雨が降り出す。桜前線は北海道根室市、釧路市の開花でゴール。鹿児島県桜島の昭和火口で小噴火。



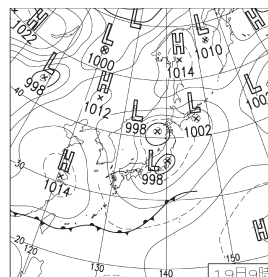
### 17日(木)西日本で黄砂

本州南岸を低気圧が東進。また日本海の寒気を伴った低気圧が本州接近。南西諸島を除いて全国的に雨や曇り。大気の状態が不安定となった本州各地で雷雨を観測。



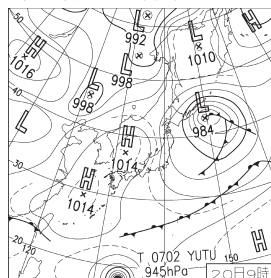
### 18日(金)台風第2号発生

低気圧の影響で北日本は雨、一部で24時間降水量は100 mmを超える。本州の太平洋側は前線の影響で曇り。その他は晴れや曇り。全国的に風強く熊本県阿蘇山で29.2 m/sの瞬間風速。



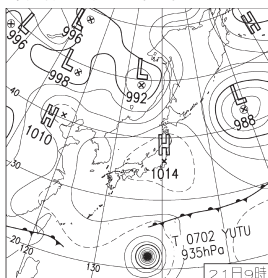
### 19日(土)気圧の谷通過

本州付近は深い気圧の谷となる。低気圧や上空の寒気が通過し、九州を除き全国的に大気の状態不安定。所々で雷雨。沖縄は梅雨前線の影響で雨。長崎県対馬市厳原で黄砂観測。



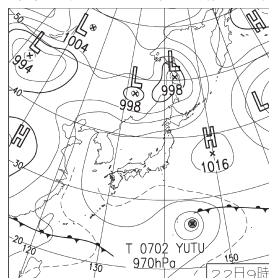
### 20日(日)北海道網走市でみぞれ

東～西日本の日本海側と北日本は低気圧や寒気の影響で曇りや雨。北海道は初め所々で雪やみぞれも次第に晴れ。他は高気圧に覆われて概ね晴れ。北海道釧路市でサクラ満開。



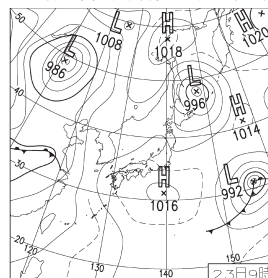
### 21日(月)穏やかな天気

本州付近は移動性高気圧に広く覆われ晴れ。西日本は引き続き小雨状態。低気圧の接近した北海道は、雲が多く風がやや強まる。北海道紋別市でサクラ満開。



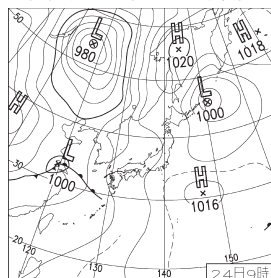
### 22日(火)沖縄では梅雨の中休み

日本付近は移動性高気圧に広く覆われる。入梅した沖縄を含め全国的に晴れ。台風第2号は父島をかすめて北東に進み、勢力やや衰える。札幌で26.4℃の夏日。



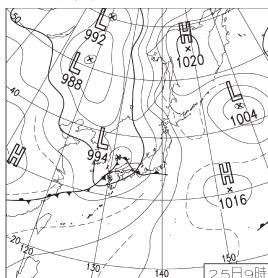
### 23日(水)関東・東海で真夏日

高気圧に覆われ全国的に晴れ。各地で気温上がり6月下旬～7月下旬並。群馬県館林市で32.6℃等、関東・東海地方の所々で真夏日。台風第2号温低に。根室市でサクラ満開。



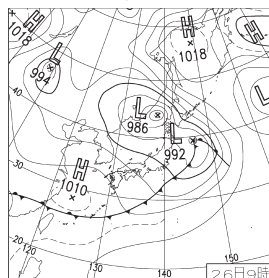
### 24日(木)オホーツク海霧の季節

千島近海の低気圧の影響で北海道オホーツク海側は曇。前線の接近した九州南部は雨や曇。その他は全国的に晴れ。ひまわりの可視画像は、オホーツク海の霧を鮮明にとらえる。



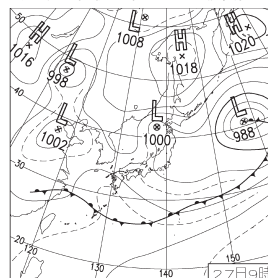
### 25日(金)日本海低気圧

前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を東進。西日本～東北は朝から雨。北海道も次第に雨。各地で100 mmを超える大雨。長野県御嶽山で190 mm/24 h。



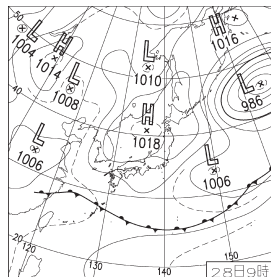
### 26日(土)奄美 遅い梅雨入り

低気圧は東海上に抜け西～東日本は晴れ間が戻ったが、北日本は別の低気圧の影響で曇りや雨。沖縄～東北の広範囲で黄砂。奄美地方で梅雨入り。統計開始以来最も遅い発表。



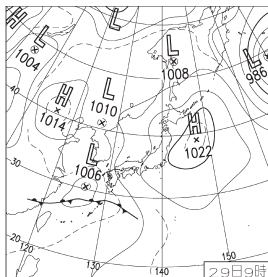
### 27日(日)今年初の猛暑日

西日本は高気圧に覆われて晴れて気温が上がる。大分県大分市大飼は36.1℃と最高気温が35℃を超える猛暑日となった。一方、北海道は寒気の影響で5℃以下の低温。



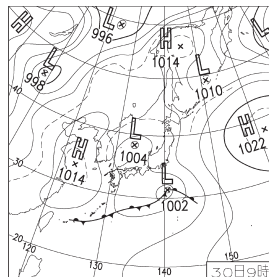
### 28日(月)東日本太平洋側で低温

日本付近は日本海の高気圧に覆われて全国的に概ね晴れ。東日本では海上からの北東の気流が入って一部で曇り。最高気温は所により4月下旬並みの20℃前後。



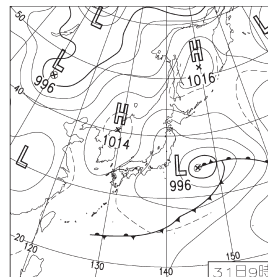
### 29日(火)北は氷点下、南は熱帯夜

朝の最低気温は、北海道弟子屈町川湯で-1.3℃の冬日、沖縄県竹富町大原で27.5℃の熱帯夜。前日と同様、日本付近は冬と夏が同居。宇都宮市でシオカラトンボ初見。



### 30日(水)本州付近を寒気が通過

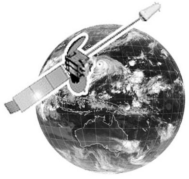
前線を伴った低気圧が南海上を東進。一方、寒気を伴った上空の気圧の谷が本州付近を次々に通過。九州を除く西日本と北～東日本は、大気の状態が不安定となり所々で雷雨。



### 31日(木)東～北日本で雷雨

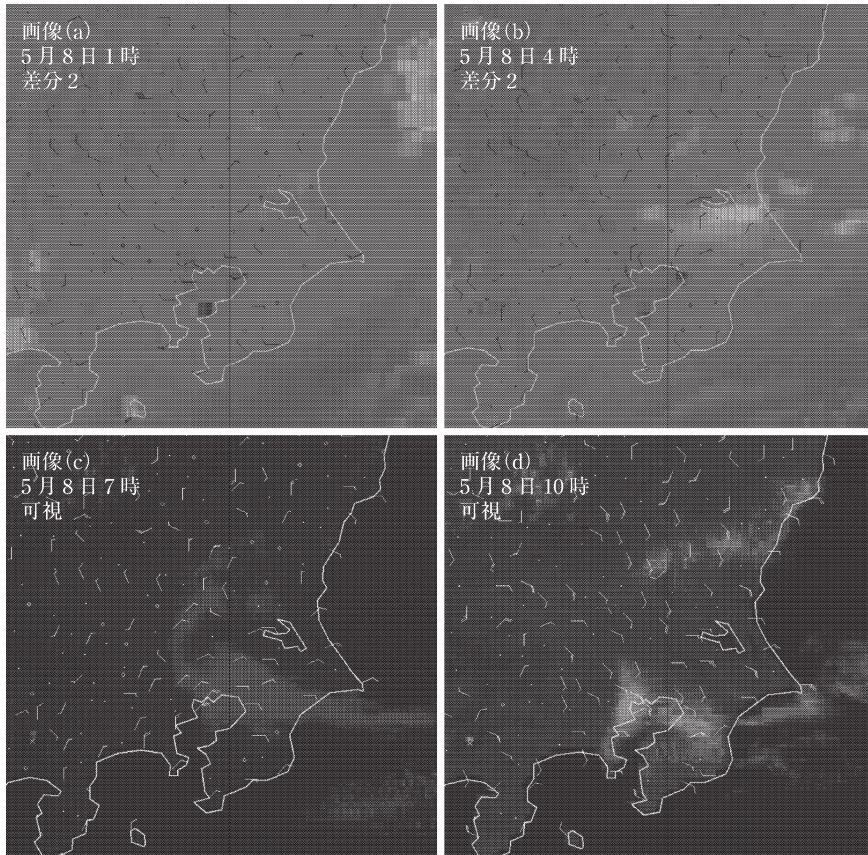
上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し東～北日本は所々で雷雨。岩手県や関東南部は30～40 mm/1 hの激しい雨。神奈川県で雷雨による床上・床上浸水や停電。九州は終日晴れ。





## 今月のひまわり画像—2007年5月

### 東京都心に現れた霧



5月8日の朝まだき、東京は突然の霧に包まれた。東京（千代田区大手町）は前日から視程10 km 未満の状態が続いていたが、8日の朝6時過ぎから急激に視程が悪化し、6時20分に霧を観測した。この突然の霧の発現を気象衛星が克明に捉えていた。

画像 a は、8日午前1時の差分2画像（ $3.8\mu\text{m}$ 帯の輝度温度から赤外の輝度温度を差し引いて画像化したもので、下層雲の判別が可能）である。この時刻、関東には特に目立った雲はない。参考のため、同時刻にアメダスが観測した地上風のデータを矢羽（長い矢羽が2 m/s）で加えた。画像 b は、同じく4時の差

分2画像である。鹿島灘から進入してきた北東風の先端にあたる茨城県南部で、霧と思われる下層雲が発生している様子が伺える。画像 c は、7時の可視画像である。霧域は北東風の進入に合わせて、拡大しながら南西へ移動しているように見える。画像 d は、10時の可視画像である。霧域は日中の昇温とともに衰弱、消散していく様子が見てとれる。この朝は関東を覆う中上層の雲がなく、霧域の消長をよく捉えることができた。

（気象庁予報部予報課 野中信英）